

## 明るい社会をつくる地域の人との関わり

津市立高茶屋小学校 6年

私は、社会を明るくするために、地域の人や周りの人との関わりが大切だと考えました。

少し前にテレビで、あるニュースを見ました。それは、私よりも小さな七歳と五歳の姉妹が詐欺を防いだという、明るくて見ていて嬉しいニュースでした。

その姉妹がATMを訪れた時、高齢の男性が携帯電話で話しながら、ATMを操作していました。姉妹は、近くに貼られていた特殊詐欺防止のポスターを見て、母親に「あの人ポスターと同じことをしているよ。」と伝えたそうです。そして、母親が声をかけるとともに警察に通報し、詐欺被害を防いだそうです。

私は、姉妹のことをすごいなと思いました。私だったらできないと思ったからです。もし、私が姉妹のような状況に遭遇したら、「詐欺に引っかかりそうになっているわけではないかも。」と不安や心配が出てきて、母にすら声をかけることができずに、気づいても見て見ぬふりをしてしまうかもしれないと思いました。

このニュースを見て、地域や周りの人のことを気にかけること、関わっていくことの大切さを感じました。知らない人だからといって声をかけないのではなく、同じ地域の一員として助け合うことが大事だと思いました。

しかし、報道されるニュースは良いことばかりというわけではありません。見てみると悲しくなるようなニュースも多く報道されています。見ていて悲しくなるような犯罪や非行を、どうしてやってしまうのだろうと疑問に思っていました。そこで私は、どうして犯罪や非行をしてしまうのかについて考えてみました。

その理由の一つに、周りの環境が関係していると考えました。周りに悩みを話せるような人がなくて、苦しい状況に追い込まれてしまい、犯罪や非行をしてしまおうという気持ちになってしまうのではないかと思います。けれども、犯罪や非行は、何があっても手を出してはいけないことです。犯罪や非行をすることは、周りの人を傷つけるだけでなく、自分自身も傷つけてしまうと思います。

私は、罪を一度犯した人がもう一度罪を犯してしまうという話を聞いたことがあります。調べて見ると、罪を犯した人のおよそ二人に一人がもう一度罪を犯してしまっているという現状が分かりました。私は、また罪を犯してしまうということは、犯罪や非行からの立ち直りに何か問題点があるのかもしれないと考えました。犯罪や非行からの立ち直りについても調べてみたところ、立ち直りには問題点があると分かりました。

その問題点とは、社会における仕事や居場所がなかったり、仲間がいなかったりと、ひとりぼっちの状態になってしまうことです。居場所がなく一人になってしまい、また犯罪や非行を繰り返してしまうのだと思います。私には、一緒にいると安心できる家族や、仲良くしてくれる友達がいるので、居場所や仲間がない人がいるということに驚きました。

そこで私は、地域の中での自分の居場所を作ることが良いと考えました。地域や周りの人と少しでも関わりがあれば、地域の中の一員として、自分の居場所ができると思いました。自分の居場所だと感じられる場所ができたなら、罪を犯す人が少しでも減ると考えます。

地域の人や周りの人と簡単にできる関わり方は、あいさつだと思います。あいさつは、一言かわすだけでつながりがうまれる魔法の言葉です。あいさつをする人が一人でも多くなっていけば、みんなが良い気持ちでいられる、今よりも明るい社会になると考えます。

このようなことから、私は、社会を明るくするために、地域の人や周りの人との関わりが大切だと考えました。あいさつや少しの会話のような簡単なことから、地域の絆をつくることができると思います。地域の人との関わりを今まで以上に増やして、明るい社会をつくっていきたいです。